

Z会進学教室 葛西通信 11月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室の先生のお届けします。

「高校演劇の世界」

数学科 井塚雄一先生

葛西教室で日曜日の2V, 2K, 1Vの数学を担当している井塚雄一と申します。

Z会でお世話になって4年。御茶ノ水教室でデビューし、北は大宮、南は横浜(代講のみ)、西は八王子、そして東はこの葛西教室と色々な教室で担当させて頂きました。ある時など横浜から所要で船橋へ行ってから御茶ノ水→池袋→八王子と移動せざるを得なかった時は

思えば遠くへ来たもんだ

と、つぶやいた事も…。Z会にお世話になる前は他県で学校の教員をしており、その間色々な部活動の顧問を経験してきましたが、その中でも一番思い入れの多い高校演劇についてお話ししたいと思います。

【演劇部顧問としての井塚】

関西某県の某女子高で勤務する事になった時、初めて部活動の顧問を担当することになりました。未経験の部活の顧問になる事もザラだと事前に聞いていたものの、「どの部活の顧問を持つのだろう」「将棋部の顧問になれたらいいな」(井塚は一応アマチュア二段の免状を持っています)と漠然とした不安と期待をしていたら演劇部の正顧問に…。井塚だけでなく副顧問も演劇未経験者でしかもその学校では新任。右も左も分からない状況に放り込まれ茫然としていると生徒指導の主任から「まあ、先生しか男手はいないから(副顧問は女性)、力仕事と(荷物を搬送する)トラックの運転などをしてくれれば…」と言われました。

俺は運送業者か？

と心の中でツッコミを入れたのですが(注. 運送業者さんに対する偏見はありません)、実際に顧問になってから19時過ぎにトラックに荷物を積み始め、夜中に荷物を運んだ時は

もはや夜逃げじゃねーか

と心の中で呟くハメに…。

顧問として1年目は失敗だらけでした。今でもその当時の生徒の事を思うと申し訳ない気持ちでいっぱいです。一時期総スカンを食らうハメになったことも…。原因は細部まで挙げたらキリがないでしょうが、大きく分けて2つあります。まず、生徒ときちんと向き合えていなかったこと、もう1つは演劇に関して無知なままだったことです。

そらアカンわ…

前者についてはしっかり者の副顧問がいてこそ崩壊は免れたものの、次年度は別の教員に交代し、その教員は家庭の事情もあってそこまで関われなかったので自分がしっかりとコミュニケーションを取らねばならず、必死になって信頼関係の回復に努めました。部誌を書かせてはコメントをつけて返したり、演劇部通信「明日のヒロイン」を不定期発行したのもこの頃です。後者については休日に観劇の数を重ねて演劇について少しでも学び、普段は演劇に関する書籍を読み、舞台のセットを作り、脚本について既成本に許可を得て加筆修正したり生徒と合作で書き上げたり…。手先の不器用な人間がパネルや台を作り、文才の無い人間が脚本を書いたのですからクオリティで言えば黒歴史そのものだったと思っています。唯一、「自分でもそれなりの出来」だと言えるのは既成脚本への加筆修正かな、と。元々の脚本は「戦争が激しくなってきた時代、出征間近な少年と勤労奉仕の少女の出会いの話」だったのですが、上演時間が余りにも短いのでたまたま読んでいた三浦綾子の「天北原野」の話から着想を得て「少女が少年の為に千人針を用意し、それを見た勤労奉仕の先生が五銭玉と一緒に一針縫う」という話を加筆した上で上演許可を取りました。（余談ですが、以前JR両国駅前にある「江戸東京博物館」へ行ったのですが、「五銭玉を縫い付けた千人針」が展示されていました。）

【観劇にハマった井塚】

先述の通り、演劇部顧問になった時の井塚は演劇について無知でした。その為、県内の他校の先輩顧問から「とにかく1つでも多く観劇しなさい」という助言を頂きました。ただ、それだけならまだしも彼らは近畿大会の審査員として各県から派遣する1名になんと井塚を指名するという暴挙(?)に…。

まあ、それを2つ返事で受けたアンタもアンタだけだね

今でもその時を思い出すとゾッとします。各府県から選ばれた素晴らしい劇の審査を新米がするのですから…。実際、審査員からの講評で井塚がコメントできたのも事前に審査員同士で話し合った内容をまとめたものがあればこそで、そこに井塚自身の意見はほとんど入ってなかったような気がします。反面、個人的には大いに勉強になり、観劇という1つの趣味が増えたという点においてはここで成長させてもらえたと思っています。

それ以外の観劇については公演情報をキャッチしたものや誘われたものは片っ端から…。高校演劇の各大会や自主公演、学生劇団、アマチュア劇団、プロの劇団など、多いときは年間60本以上観ていたのではないかと思います。一時期、知人から

「公演のある所に井塚有り」、 「(客席で)振り向けば奴(井塚)がいた」
「思い立ったが観劇」、 「三度の飯より観劇」、 「間隙を与えると観劇している」

などと言われる始末…。

特に毎年夏に行われる高校演劇の全国大会については毎年各県で持ち回りですので、陸海空様々な手段を駆使して移動し、宿泊費はなるべく抑え…。そういえば徳島へ行ったときは天井が天然のプラネタリウムだったなあ…。

人はそれを「野宿」という

我ながらその時の自分に呆れています。「もう1回やれ」と言われても多分できないでしょうね。



【高校演劇の全国大会への流れ】

さて、ここで高校演劇の全国大会への流れをざっくりと話します。

1. 地区大会（地域によって違いますが6月～11月ぐらい）

各都道府県の中でいくつかの地区に分かれ、県大会への出場をかけて上演します。

※ 地区大会が無く、県大会のみである県もあります。

2. (各)都府県大会（これも都府県によって違いますが7月～11月ぐらい）

地区大会から選ばれた学校が上演し、ブロック大会への出場をかけて上演します。

※ 都道府県によってブロック大会に出場できる学校数が違います。

※ 北海道は全体がこの上の「ブロック」扱いになっています。

※ 関東ブロック内の都県は各2校ですが、東京・神奈川・千葉・埼玉は持ち回り枠で1校プラスされます。

3. ブロック大会（11月～1月）

各県で上位に入った学校が北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州といった8つのブロックで上演し、全国大会への出場をかけて上演します。

※ 関東ブロックはさらに南北に分かれ、南は東京・神奈川・千葉・茨城・静岡・山梨から各都県2校プラス開催県1校の13校、北は埼玉・栃木・群馬・長野・新潟の各県2校プラス開催県1校に加え、先述の東京・神奈川・千葉・埼玉の持ち回り枠1校の12校が出場し、南北それぞれの会場で最優秀校に加え、南北どちらかの会場で2番手の学校の3校が全国大会へ出場します。

※ ちなみに近年、東京都からは都立千早さん、立川女子さんが連続して全国大会に出場しています。190校ほどの激戦区で連続はすごいです！

4. 全国大会（次年度7月末～8月頭にかけて）

各ブロックから代表1校（関東ブロックは3校）に加え、開催県1校、各ブロック持ち回り枠1校の計12校が3日間に渡って熱演を繰り広げ、厳正な審査によって最優秀校（1校）、優秀校（3校）の他、創作脚本賞、舞台美術賞、内木文英（ないきふみえ）賞などが選ばれます。

さらに最優秀校と優秀校の4校（例外あり）は8月下旬に東京国立劇場で招待公演に出場し、最優秀校の劇はEテレの番組「青春舞台」で放送されます。

この他、惜しくも全国大会への出場を逃した学校から選ばれた学校が出場できる春フェス、関東ブロック内の都県で惜しくも関東大会への出場を逃した学校が出場できるサマーフェスティバルなどもあります。

【高校演劇に魅せられた理由】※井塚の独断と偏見も間違いなく入っています…

では、何故高校演劇は熱いのでしょうか？

皆さんにとっては春夏の甲子園の方がイメージを持ちやすいのではないかと思います。野球の技術の素晴らしさなら間違いなくプロの方がいいでしょう。プロ野球にも感動するシーンはあれど何故高校野球は人々の心を熱くさせるのか？某メディアや高〇連の陰謀などではありません。トーナメント制であり、高校3年間（実質2年半？）という限られた期間でひたむきに頑張る姿があるからではないでしょうか。しかも心を熱くさせてくれるのは甲子園だけではなく。厳しい環境のもと、他校と連合チームを組むなど厳しい環境下で1勝を目指す…などといった話もよく耳にします。

これは高校演劇といえども同じです。野球との違いは全国大会へのチャンスが高校在学中に2回しかなく、高校2年の地区大会で敗退した時点で引退、実質1年半だけという学校も珍しくありません。逆に、高校3年の秋にブロック大会で全国大会に出場を決めた後、後輩に全てを託した例もあります。反面、野球のように人数制限がほぼありません。

さて、ここで質問。全国大会に出場した学校のうち、役者の最少人数は何人でしょう？

なんと

1人！

役者1名だけで50分ほど（上限は60分）を演じきっており、しかもそのうちの1つは

全国最優秀校に選ばれた！

嘘だろ!?と思う人もいるかも知れませんが事実です。実際、井塚も観ました。1人芝居であれほど目が釘付けになったのはあれが初めてです。

他にも某県の農林高校で実際にあった3本脚で生まれた子牛の話をもとにした劇は全米が、ではなく全客が泣いたと言っても過言ではなかったでしょう。他にはナチスに迫害されたユダヤ人の隠れ家での話、「良妻賢母を目指すのが女子の教育」という時代に女子サッカーを始めた話、1年前の災害をもとにした話（地区大会から全国大会までの間に年度をまたぐので、全国で観ると1年前の時事になるケースは珍しくありません）、等身大の彼ら自身の主張や人間の内面にまつわる話など、挙げたらキリがありません。そういえば昔はきちんとしたセットを作り、照明や音響も緻密に作っていたのですが、東日本大震災の被災地に演劇で慰問するようになってからは舞台セットも照明や音響も使わず集団演技で表現するという技法にシフトした高校もあります。ただ、どの劇であれ、観る度に考えさせられる事の1つに

この子たちはどんな思いでこの作品と向き合ってきたのだろう

と。時には共感し、時には向き合うことに耐えきれずに思わず目を背けたり、と…。ただセリフを言う、ただ演出に言われた演技をするだけでは感動を呼ぶ作品はできないから心の中まで苦い汗を流してきたのかも知れません。それゆえに全国大会出場を決めた瞬間、全国大会で最優秀校あるいは優秀校に選ばれた瞬間の歓喜と涙は「心の中の苦い汗」を流した彼らのひと握りにしか巡ってこないのだと思います。

あと余談ですが、高校演劇の脚本をもとに映画ができた例もありますし、プロの劇団が上演した例もあります。ただ、その中で井塚が観たものの1つは

7人の女子高生を7人のオッサンが演じる

という見た目はかなりシュールな舞台でした…。これは劇そのものの話ではありませんが、九州のある高校ではなんと

野球部員が高校演劇の大会の舞台に立った

という話もあります。しかもその野球部は甲子園出場経験もあり、OBにプロ野球の監督もいる学校で役者として出た野球部員はチームの主力選手だったそうです。この話はその当時演劇部の顧問だった方の著書で紹介されたのち、映画にもなっています。

【“ティーンエイジ”というかけがえのない時期を一生懸命輝いて生きる皆さんへ】

皆さんは学校でどんな部活動に所属しているのでしょうか。また、校内での部活動ではなく、外部の活動に所属している人もいるでしょうし、今は思うところあって活動こそしていないが臥竜鳳雛の如く躍動する時期に備えてグッと力を溜めている…という人もいます。かも知れません。

そういった何かしらの活動で頑張っている人は、悔いの無いよう精一杯…というのはもちろんのこと、無茶をし過ぎて心身ともにすり減らされて燃え尽きてしまい「二度と関わりたくない」ということの無いよう、「生涯スポーツ」としてプレーを続ける」とまで行かなくとも「生涯にわたって楽しめる」という形で向き合えるような付き合い方をしてもらいたいです。それともう1つ、

どんな部活であれ、 そこで一生懸命輝いている者を嘲笑うな

「そんなことする人なぞいないだろう」と思いたいのですが、実際には特に体育会系の部活動をしてきた人が文化系の部活のことを馬鹿にする発言は決して少なくありません（もちろん、そんな人ばかりではありませんが）。そんな資格は誰にもないはずですが、社会の風潮なののでしょうか。井塚はそういった話を聞くと腹立たしくもあり、情けない気持ちにもなります。お互いにリスペクトする気持ちは忘れてほしくないですね。ということで

頑張っていることに誇りを持て

という一言で締めくくらせて頂きます。ここまで読んで下さり、ありがとうございました。

月	日	曜	受付	本科生スケジュール					本科生以外の方対象のイベントなど	
10	27	日	12 ~ 20	11月度①	3N 休講	3V・3K 実力テスト	2V・2K 月例テスト	1V 月例テスト		
	28	月	14 ~ 22							
	29	火	14 ~ 22							
	30	水	14 ~ 22							
	31	木		休室						
11	1	金	14 ~ 22							
	2	土	14 ~ 22							
	3	日	12 ~ 20	11月度②						
	4	月	14 ~ 22		10:30~12:30 2V保護者会	14:30~16:30 2K保護者会				
	5	火	14 ~ 22							
	6	水	14 ~ 22							
	7	木		休室						
	8	金	14 ~ 22							
	9	土	14 ~ 22							
	10	日	12 ~ 20	11月度③						
	11	月	14 ~ 22							
	12	火	14 ~ 22							
	13	水	14 ~ 22							
	14	木		休室						
	15	金	14 ~ 22							
	16	土	14 ~ 22							
	17	日	12 ~ 20	11月度④						
	18	月	14 ~ 22							
	19	火	14 ~ 22							
	20	水	14 ~ 22							
	21	木		休室						
	22	金	14 ~ 22							
	23	土	14 ~ 22		駿台模試				10:30~12:30 千葉県立高校入試研究会	14:00~16:50 中1中2学力診断
	24	日	12 ~ 20	12月度①			2V 月例テスト	1V 月例テスト		
	25	月	14 ~ 22							
	26	火	14 ~ 22		3V 実力テスト (授業内実施)					
	27	水	14 ~ 22		3V 実力テスト (授業内実施)					
	28	木		休室						
	29	金	14 ~ 22		3V 実力テスト (授業内実施)					
	30	土	14 ~ 22		都立自校作成・独自問題テスト演習				14:00~15:00 冬期講習説明会	
12	1	日	12 ~ 20	12月度②						
	2	月	14 ~ 22							
	3	火	14 ~ 22							
	4	水	14 ~ 22							
	5	木		休室						

Z会の教室

Z会進学教室 葛西教室

〒134-0084 江戸川区東葛西 6-2-3 第三須三ビル 6 階 TEL03-5878-0844

受付時間 平日 14 : 00~22 : 00 日曜日・講習中 10 : 00~20 : 00

『葛西通信』の記事（バックナンバー）は Web からご覧いただけます。

Z会 葛西

検索